

## 鹿井いつ子

（平成二十九年一月号）

蜻蛉の赤き群舞よ熊本城復興祈願のオペラコンサート

昨夜よべの雨止めば十方より熊本城二の丸広場に人人寄り来

透きとほる硝子のやうな秋の気にすくと立ちたり七人の歌手

天女の影ふとおもふかな虹いろの薄ら衣まとひし神戸薫子

県民に賜ひし『熊本城讃歌』山越え河越え響き渡れよ

虎刈りの天守は哀しゑ熊本城二の丸広場の夕暮れてゆく



### ●作者の言葉

四月の熊本地震より半年後、熊本城復興応援オペラコンサートが、熊本城二の丸広場ステージにて開催された。

予期せぬすさまじい惨事を体験し、懸命に不安の日日を過している最中の事である。美しい日本歌曲や華麗なナポリ民謡の歌声に時を忘れ癒され

た。中でも佐佐木頼綱氏夫人の神戸薫子さんんがが謳い上げられた、佐佐木幸綱先生作詞「熊本城讃歌」は圧巻であった。肥後人にとつてこの上ない励ましとなった。感動を素のままに詠んだ短歌に賞をお与え下さいました晋樹先生、ありがとうございます。

### ●選者の言葉

昨年四月に熊本を襲った大地震は、益城を中心に南阿蘇や大分にいたるまで大きな被害をもたらした。当地のシンボル熊本城も例外ではなかった。

佐佐木頼綱君の奥さんの薫子さんはじめ数名が、復興を念じてコンサートを催したと聞いていたが、鹿井さんも急遽駆けつけたのだろう。

初日は大雨で中止だったとか、翌日は赤蜻蛉の舞う中での熱演の雰囲気などの作品にもドラマチックに詠まれていて、臨場感にあふれている。

「山越え河越え響き渡れよ」と詠まれたとおり、今、天下の名城は修復に取りかかりはじめたと聞く。「城」をテーマにした歌としても忘れがたい一連であろう。